

Tender Is The Night 試論

本 間 喜 美 子

はしがき

アメリカが、世界の秩序維持とデモクラシーの理想実現という高い使命を担って参戦した第一次世界大戦が終結し、人々の心に安堵と虚無が、無気力と反動が漂っていた1920年¹にF. Scott Fitzgeraldは*This Side of Paradise*において、真っ先にこの狂乱の時代を的確にとらえ、華々しく文壇に登場した。1925年には*The Great Gatsby*の出版により、Edith Wharton²、T. S. Eliot³等の絶賛を受け、時代の寵児、流行作家としての名声に加えて、著名な作家、批評家の鑑賞にもたえうる実力ある作家としての地位を獲得した。

しかし人気と幸運の頂きに登りつめたFitzgeraldは、*The Beautiful and Damned*において希望に満ちた生活からどん底の生活へ、美しき者から呪われた者へ転落する悲慘を予想したように、その後転落の一途を辿り、遂に*The Crack-Up*において彼の成功と敗北、栄光と悲慘とを大衆の面前で告白するまでに至ったのである。

Fitzgeraldが"—And then, ten years this side of forty-nine, I suddenly realized that I had prematurely cracked."⁴と告白しているように、若くして崩壊を経験した作家であり、彼が崩壊したと告白した時点において作家としての生涯が終ったと解釈するならば、Fitzgeraldは*The Great Gatsby*によってのみ文学史に記録される作家となったであろう。しかしFitzgeraldは崩壊を、作家としての死を経験した後、*The Last Tycoon*に着手し、この作品によっても未長く記憶される作家となった。

*The Last Tycoon*はFitzgeraldの死によって未完の作品となったが、主題の把握においても、技巧、文体においても*The Great Gatsby*を凌ぐとも劣らない作品であり、John Dos Passosは次のような賛辞を表している。

It is tragic that Scott Fitzgerald did not live to finish *The Last Tycoon*. Even as it stands I have an idea that it will turn out to be one of those literary fragments that from time to time appear in the stream of a culture and profoundly influence the course of future events.⁵

Fitzgeraldの作品の上から*Tender is the Night*は*The Great Gatsby*という峰と*The Last Tycoon*という峰に挟まれた谷のような作品で成功作とは言えないにしても、主人公Dick Diverの崩壊と新生を共に表現しており、Fitzgeraldが崩壊した後何故新生したかを物語る重要な作品となっている。

I *Tender is the Night* 創作の過程

Fitzgeraldは1925年に*The Great Gatsby*を出版して以来、1934年に*Tender is the Night*を出版する迄およそ十年間、注目に値する作品を殆んど書いていない。Fitzgeraldがこのように長い年月、何故沈黙したか、その原因は種々な方面から考察されうるが、Fitzgeraldの私生活が徐々に落ち着きを失い、乱れてきたのに原因の一つを究明する手掛かりを見出しえるかもしれない。

1925年以後1934年までにFitzgeraldの作家としての人気が徐々に下落し、それに伴って収入も減少した。1920年から1924年までの収入は年平均22,500ドルに対し、1925年にはおよそ16,000

ドル、1932年から1933年には5,000ドルと減少し、絶えず負債に苦しんでいた。

このような経済上の逼迫に加えて、Fitzgeraldは自我が崩壊するのではないか、Arthur Mizenerによればemotional bankruptcy⁶になるのではないかと不安に怯えていた。Fitzgeraldが1925年の夏に"1,000 parties and no work"⁷と告白しているように、昼夜をとわず酒宴に出ては常軌を逸した行動にはしった。それは孤独となり、自己と真正面に向かいあうのを恐れている姿であった。

この間1928年には、Fitzgeraldと常に行動を共にしてきた妻のZeldaが、突然バレエ・ダンサーになるのを決意し、年齢のうえからもダンサーとして大成するのを望むのは無理であったが、一日のほとんどすべての時間をバレエのレッスンに費やす程、熱烈にバレエに打ち込んだ。しかしZeldaの激しい努力は精神に異常をきたす前兆にすぎず、間もなく精神分裂症と診断された。FitzgeraldはZeldaの発病に、Zeldaを発狂するまで精神的に追いつめた事に、悔恨と責任を強く感じ、Zeldaを救うため、それは彼自身を救うことでもあったが、全力を尽した。しかしその努力がいかに絶望的であるかを知るにそう時間がかからなかった。

以上のようなFitzgeraldの混乱した生活のほか、彼が*Tender is the Night*に対し野心的な意図を持っていたのも、この小説の完成を遅らせた原因となっている。Mizenerは特にFitzgeraldがこの小説に託した期待と野心とを強調している。

This was not, however, wholly the fault of the kind of life he and Zelda were living, even indirectly; it was partly the result of the extremely ambitious plans Fitzgerald laid for himself after *The Great Gatsby's* critical success.⁸

*Tender is the Night*には、Fitzgeraldが主題を確実に把握し、小説としての技巧を完成しようと努力したがゆえに多くのversionが存在する。例えばDickのモデルと見做されているGerald Murphyは八つの異なった草稿の存在を指摘している。

To my knowledge he made 8 drafts of that [*Tender is the Night*] and I can't help recalling that my wife and I witnessed his destruction of what we were afraid was going to be the last draft, when he went out in a boat and tore it to pieces and scattered it on the waves of the Mediterranean, and we were so afraid that it would not be rewritten; that was the 7th draft. But the 8th he did, and the 8th we have.⁹

Matthew J. Bruccoliは*The Composition of Tender is the Night*において、最初の草稿の存在を明らかにし、詳細な分析を行なっている。Bruccoliは、Fitzgeraldが*The Great Gatsby*を出版した1925年の夏にはすでに最初の草稿に着手していたと指摘する。それはハリウッドで映画関係の仕事をしていて、国籍を離脱してパリへ赴いたアメリカ人、Francis Melarkyのリヴィエラ海岸での生活を描いた簡潔で感傷的な小説となるはずであった。

Fitzgeraldはこのdraftで*Tender is the Night*のおよそ四分の一にあたる長さの三章を自筆で書いている。こゝですでにNorth夫妻とDiver夫妻のprototypeが現われている。このholograph draftは幾度にもわたる修正、加筆の後に、typescriptとなる。holograph draftもtypescriptも、物語は、plotの展開にあまり関係のない人物によって語られた。

1926年、これらの草稿を、plotや事件の展開に密接な係りのある人物を語り手として書き直す。1925年のtypescriptをも包含する三番目のholograph draftにおいて、plotは以前の草稿より複雑になり、パリに関連した出来事の大部分がそのままのかたちで1934年のoriginal edi-

tionに挿入されている。このversionは*Our Type*, *The Boy Who Killed His Mother*, *The Melarky Case*, *The World's Fair*等と称せられる。

1929年の夏に、Fitzgeraldは主人公が支配的な母親を殺すというplotを捨てて、長い二章のみ残存するKelley versionに着手し、このversionにおいてRosemary HoytのprototypeであるRosemaryという名の若い女優を導入した。

1930年に母殺しの主題を再び取り上げた。1932年には三番目のversionのplotを展開すべく着手した。これがDick Diverの物語であり、この草稿は*The Drunkard's Holiday*と呼ばれ、次に*Doctor Diver's Holiday*, *Tender is the Night*と変えられた。これが、更に広範囲にわたる書き直し、組み直しを経て、*Scribner's Magazine*に連載される「続き物」の原稿となった。*Tender is the Night*のゲラ刷りはこのserial versionから始められ、修正、加筆の後、1934年に出版された。¹⁰

*Tender is the Night*は幾度にもわたる修正と入念な吟味を経て完成したが、Fitzgeraldはこの小説の巻頭の部分がなお不満だったらしく、Maxwell Perkinsへの手紙で次のように語っている。

Its great fault is that the true beginning—the young psychiatrist in Switzerland—is tucked away in the middle of the book. If pages 151–212 were taken from their present place and put at the start, the improvement in appeal would be enormous.¹¹

Fitzgeraldのこの意図に従いMalcolm Cowleyは1948年にnew versionを編集したが、Cowley自身もこの修正によって若々しいRosemaryの視点からDickを叙述した新鮮な、輝やかな巻頭部分の喪失に疑問を抱いている。しかしCowleyはchronological orderで物語を展開する事により輝やかな巻頭部分の喪失を償う長所を見出している。

By rearranging the story in chronological order Fitzgerald tied it together. He sacrificed a brilliant beginning and all the element of mystery, but there is no escaping the judgment that he ended with a better constructed and more effective novel.¹²

しかし*Tender is the Night*の主題、Dickの崩壊という点から、又崩壊の底に流れるもう一つの主題、新生という点からもRosemaryの視点から印象的にDickを叙述した1934年のoriginal versionのほうがすぐれており、更に構成の点でも、Dickの世界であり、Dickの妻、精神分裂症のNicoleにとっても唯一の世界であったリヴィエラ海岸で始まり、DickがNew Yorkの下町を彷徨しているという短い報告を除き、同じリヴィエラ海岸のsceneで終るoriginal versionは整然としている。以上のような理由でこの論文においては1934年のversionに従ってFitzgeraldの崩壊と新生とを考察するが、Fitzgeraldがこのversionに満足せず、修正する意図を持っていた点を忘却する事は出来ない。¹³ 1934年のversionも1948年のnew versionも、それぞれに長所、短所があり、どれが正統であるかを決定するのは困難であろう。*Tender is the Night*は、Fitzgeraldの死で未完となった*The Last Tycoon*と同じく未完の小説とも言う。しかし*Tender is the Night*は*The Last Tycoon*と同じく未完であるがために、その偉大さと輝やかさをそこなわれない。

II Dick Diverの世界

FitzgeraldはJazz Ageの代弁者、Flapper Generationのプレイボーイ等と呼ばれ、確固たる秩序を保ち、ピューリタニズムの伝統を受け継いでいるアメリカの社会、第一次世界大戦以前の旧

き社会とは無縁の、或は社会に反抗した作家と受けとられている。

Robert E. Spillerも "The revolt of the younger generation was touched off by the semiautobiographical novel of Princeton life, *This Side of Paradise* (1920), by F. Scott Fitzgerald (1896-1940)."¹³ と Fitzgerald を伝統的なアメリカの社会とその社会が創造するあらゆるものに反抗し、若き世代の先駆者となった作家と考えている。しかし *This Side of Paradise* の主人公 Amory Blaine の性に対する罪悪感、善と悪に対する鋭い認識等に表現されているように Fitzgerald はアメリカの伝統を重んじ、それ故に彼の反抗は Edmund Wilson の指摘する "a gesture of indefinite revolt"¹⁴ となった。

Fitzgerald は *The Great Gatsby* を時の流れに逆らって、進もうとする強い決意で結んでいる。

Gatsby believed in the green light, the orgiastic future that year by year recedes before us. It eluded us then, but that's no matter—tomorrow we will run faster, stretch out our arms farther And one fine morning—

So we beat on, boats against the current, borne back ceaselessly into the past.¹⁵

Tender is the Night においても同じ主題を取り上げている。*The Great Gatsby* において、Fitzgerald はアメリカの伝統を支える二つの精神、人生の可能性と理想と夢とを究極まで追求し、時間、空間をも超越して飛翔する frontier spirit から生れ出た American Dream の精神、Romanticism の精神を Jay Gatsby に具象化し、厳しい道徳観と堅固な価値体系を持ち、秩序と勤勉を重んじる Puritanism の精神を Nick Carraway に具象化している。

Tender is the Night において Gatsby の Romanticism の精神は Dick の人生観、アメリカ人特有の楽観的人生観となっている。

Dick got up to Zurich on less Achilles' heels than would be required to equip a centipede, but with plenty—the illusions of eternal strength and health, and of the essential goodness of people; illusions of a nation, the lies of generations of frontier mothers who had to croon falsely, that there were no wolves outside the cabin door.¹⁶

他方 Nick の Puritanism の精神は他を評価する基準、善悪を判断する基準となりえなかったが、"the last hope of a decaying clan" (p. 302) としての Dick について考え、行動するか、いわゆる立派な生き方を示している。この二つの精神は *The Great Gatsby* におけるように対立し、相互に批判しあう精神とはなりえなかったが、Dick の内面で一つとなり、かつてオランダの船乗達の眼に映った "a fresh, green breast of the new world"¹⁷ の現代の姿である old world, "Dick Diver's world" (p. 27) を形成している。

現代にあっては、もはや過去の人間となってしまったのを認めようとしなかった Gatsby とは対照的に、Dick は己れが生きるべき世界、old world は崩壊し、新しい世界、new world に生きている事を認識している。Dick が「金星の母親たち」と呼ばれている第一次大戦で息子を失った母親の一人に出会い、旧き世代のものである威厳のある、成熟したアメリカの姿を見てとった時に、再び父に抱かれているように感じる。しかし Dick は過去に対する郷愁を捨て、現在に、new world に直面しようとしている。

Momentarily, he sat again on his father's knee, riding with Moseby while the old loyalties and devotions

fought on around him. Almost with an effort he turned back to his two women at the table and faced the whole new world in which he believed (p.101).

Fitzgeraldは、old worldの、Dickの世界の崩壊の時期を第一次世界大戦に求めている。

"... This western-front business couldn't be done again, not for a long time. The young men think they could do it but they couldn't. They could fight the first Marne again but not this. This took religion and years of plenty and tremendous sureties and the exact relation that existed between the classes." (p. 57)

"... This kind of battle was invented by Lewis Carroll and Jules Verne and whoever wrote Undine, and country deacons bowling and marraines in Marseilles and girls seduced in the back lanes of Wurtemberg and Westphalia. Why, this was a love battle—there was a century of middle-class love spent here. This was the last love battle" (p.57).

一方DickはGatsbyのように崩れゆく世界を、過去を復活させようと全力を尽くしている。Edwin FussellはDickの使命に関して次のように述べている。

His intellectual and imaginative energies have been diverted from normal creative and functional channels and expended on the effort to prevent, for a handful of the very rich, the American dream from revealing its nightmarish realities.¹⁸

しかしFussellは若き日のFitzgeraldのように富豪階級の持つ力と美に圧倒され、幻惑され、*Tender is the Night*が暗示する深い意義を見落しているように思われる。Dickは富豪の娘であるNicoleのためのみでなく、中産階級のRosemary, North夫妻, Mckisco夫妻, Campion, Dumphry等Dickの周囲に集まるすべての人々を"its nightmarish realities"から守っている。

Sergio PerosaはDickの創造的才能に注目して次のように述べている。

In a certain way *Tender is the Night* could also be interpreted as a novel dealing with the tragedy of the creative artist. Dick Diver could be seen as an intellectual, whose main motivation has much in common with the creative motivations of a scientist or, by extension, of an artist. He creates or recreates an organism which is dependent on him (Nicole) and succeeds in giving life and consistency to what did not exist and was shapeless before his intervention.¹⁹

このようにDickは創造の才に恵まれ、リヴィエラ海岸にold worldの象徴とも言える暖かい家庭を築いており、RosemaryはDickの傍にいたるときには常に安らぎを感じる。

Rosemary, as dewy with belief as a child from one of Mrs. Burnet's vicious tracts, had a conviction of homecom-

ing, of a return from the derisive and salacious improvisations of the frontier(p.34).

家庭はその創造者である Dick に非常に重要な係りを持ち、homeの喪失は Dick の自我の喪失と密接に関連している。Dick は Nicole が発作的に home を罵った時に、Nicole から離れようと決意する。

"Home!" she roared in a voice so abandoned that its louder tones wavered and cracked. "And sit and think that we're all rotting and the children's ashes are rotting in every box I open? That filth!" (p.190)

Dick の世界と対照的な new world に home は存在しない。Nicole を慕っている Tommy Barban に家はなく、それ故に他人の家庭を破壊するのに良心の呵責はない。Dick の家庭を破壊した Tommy と Nicole が、それに代る彼等の家庭を築く意図のないのを知り、Dick は衝撃を受けている。

"You'd be new to each other. But Nicole and I have had much happiness together, Tommy."

"L'amour de famille," Tommy said, scoffing.

"If you and Nicole married won't that be 'l'amour de famille'?" (p.309)

III Dick Diver の崩壊

有望な精神病医として将来を期待されていた Dick が何故に崩壊したか、その原因に関して批評家は種々な見解を表明している。D. S. Savage は近親相姦にその原因を帰し、Dick は、意識していないうちにも、その罪に係りがあると主張する。

In the dark enchantment of the incestuous regression life flows back to its own origins, history is dissolved into nature, the masculine will to creativeness is absorbed in the feminine will to reproduction, and that in turn to the will to dissolution.²⁰

D. W. Harding は Dick を支えてきた vitality の喪失に、Dick の自我が崩壊した原因を求めている。

On the one hand, Dick is the tragic fantasy hero who is so great and fine that every one else expects to go on taking and taking from him and never give back; and so he gets tired, so tired; and he breaks under the strain with no one big enough to help him, and it's terribly pathetic and admirable.²¹

Mizener は、Fitzgerald が *Tender is the Night* を書いていた時に、"emotional bankruptcy" になるのではないかと不安に怯えていたのに注目し、Dick の崩壊は Fitzgerald のこの不安を反映していると主張する。

He also began to fear the exhaustion of his emotional, his spiritual, energy, a final "lesion of vitality." This idea may have been suggested to him by Zelda's tragedy, for his first use of it occurs in a story he wrote for the Josephine series just when he was beginning to grasp what had happened to Zelda; the story is called "Emotional Bankruptcy." It is the story of how

Josephine meets "the love of her life" and discovers that, because she has spent her emotions so prodigally in her early youth, she can now "feel nothing at all."... It is the same one that dominates Dick Diver when, at the end of *Tender Is the Night*, he makes a last effort to be his old, sensitive self for Mary North: "But the old interior laughter had begun inside him and he knew he couldn't keep it up much longer."²²

Savage, Hardingの考えには多少の相違があるが、崩壊の原因をDickの内面に求めるよりむしろ、Dickの生きている社会や周囲の人々に帰している。特にHardingとMizenerはDickの豊かな vitalityが他の人々に吸い取られたのにその原因を求めている。

しかしDick自身も他に力を分け与えるだけでなく、成熟した、過去のアメリカに生きていた人々によって支えられている。それ故にDickに活力を与えていた人々とその人々の世界である old world が徐々に消滅してゆくにつれ、次第にDickは生存の地盤を失ってゆく。

FitzgeraldはDickの世界の消滅を丹念に追跡している。最初の喪失は、Dickの尊敬する有能な精神病医 Doctor Dohmlerの死である。Dohmlerは堅実な中流階級の人間であり、Dickが精神分裂症の患者と結婚するのはいかに危険であるかを警告していた。FitzgeraldはDohmlerの死を、old worldの喪失を悼み、次のように描写している。

The professor, his face beautiful under straight whiskers, like a vine-overgrown veranda of some fine old house, disarmed him. Dick knew some individuals with more talent, but no person of a class qualitatively superior to Dohmler.

—Six months later he thought the same way when he saw Dohmler dead, the light out on the veranda, the vines of his whiskers tickling his stiff white collar, the many battles that had swayed before the chink-like eyes stilled forever under the frail delicate lids—(p.139).

Dohmlerの死は結果的にDickのNicoleへの、或はWarren家の富への屈服となる。

第二の、最も大きな喪失は、Dickの父の死である。Dickは苦境に落込んだ時に、常に父ならいかに考え、行動したかに思いを馳せ、それを判断の基準としており、Dickの道徳上の指針となっていたのである。

Dick felt sad that he had died alone—he had survived his wife, and his brothers and sisters; Dick loved his father—again and again he referred judgments to what his father would probably have thought or done. Dick was born several months after the death of two young sisters and his father, guessing what would be the effect on Dick's mother, had saved him from a spoiling by becoming his moral guide. He was of tired stock yet he raised himself to that effort (p.203).

第三にRosemaryに対する愛の喪失。Rosemaryが vitalityの源である無垢な childishnessを失い、new worldの人間となってしまったので、Dickを救うのは不可能となる。このようにDickを支えてきた old worldは徐々に消滅してゆき、Dickの世界にはなにもものも存在せず、Dick

自身がその世界を恐れるようになる。

Probably it was the beach he feared, like a deposed ruler secretly visiting an old court.... Let him look at it—his beach, perverted now to the tastes of the tasteless; he could search it for a day and find no stone of the Chinese Wall he had once erected around it, no footprint of an old friend (p.280).

IV 新しい世界

Fitzgeraldは*The Great Gatsby*において、新しい世界, new worldの存在を一瞬認識した。

If that was true he must have felt that he had lost the old warm world, paid a high price for living too long with a single dream. He must have looked up at an unfamiliar sky through frightening leaves and shivered as he found what a grotesque thing a rose is and how raw the sunlight was upon the scarcely created grass. A new world, material without being real, where poor ghosts, breathing dreams like air, drifted fortuitously about... like that ashen, fantastic figure gliding toward him through the amorphous trees.²³

しかしFitzgeraldはnew worldの正体を明確に把握してはいない。そのためGatsbyが破滅した原因、理由が曖昧なものになっている。Fitzgeraldはこの小説の後半において、GatsbyやNickに対立する人間Tom BuchananやDaisy BuchananをGatsbyやNickと同じ西部の人間と規定している。

I see now that this has been a story of the West, after all Tom and Gatsby, Daisy and Jordan and I, were all Westerners, and perhaps we possessed some deficiency in common which made us subtly unadaptable to Eastern life.²⁴

このように規定することによって、Gatsbyを破滅させた敵の正体は一層曖昧なものとなっている。しかし*Tender is the Night*は、FitzgeraldがGatsbyを破滅させたnew worldの正体を見極めた事を示している。

Ernest Hemingwayは"*The Snows of Kilimanjaro*"においてFitzgeraldに言及し、Fitzgeraldの挫折の原因を富豪階級に対する幻滅に求めている。

He remembered poor Julian [Fitzgerald] and his romantic awe of them and how he had started a story, once that began, 'The very rich are different from you and me. ... He thought they were a special glamorous race and when he found they weren't it wrecked him just as much as any other thing that wrecked him.'²⁵

Hemingwayも指摘しているように*Tender is the Night*を執筆していた時期には、Fitzgeraldは、もはや富豪階級に独特の美と魅力に惑わされずにその正体を見抜き、この小説のGeneral Planに富豪階級をthe haute Bourgeoiseと記述している。しかしHemingwayが主張しているように、Fitzgeraldは富豪階級に幻滅したために、富豪階級の正体を認識したために

挫折したのではなく、*Tender is the Night*はHemingwayの主張とは反対に、むしろその正体を見抜いたために、明確に認識したためにFitzgeraldが立ち直った事を示している。

*Tender is the Night*における富豪階級の正体は、彼等が支配しているnew worldの正体でもある。それはold worldが確固たる秩序を保っているのと対照的に無秩序な世界であり、特にNicoleと父のDevereux Warrenの近親相姦にみられるように性において乱れた世界であり、又精神分裂症の妹に医者を買ひ与えると豪語するBaby Warrenの金の支配する世界、Tommy Barbanの破壊と略奪の世界でもある。

しかしこのnew worldこそFitzgeraldが*The Crack-Up*で新生のために熱望したvitalityを豊かに蓄わえている世界である。ミュンヘンで無法のマリーンプラッツを支配していたTommyはDickの"waning vitality"(p.197)に苛立ち、Babyの敗北を知らない力がローマでDickを監獄より救出する。もっと極端な場合には、不治の病に罹ったDevereuxが彼の異常なvitalityで死の床から立ち去りさえする。

*Tender is the Night*においてこの二つの世界、即ちDickの世界であり、過去の、ヒューマンイズムの世界、old worldと、現在の、物質主義の世界、new worldとの決戦が行なわれ、old worldの崩壊によるnew worldへの飛躍がDickの、Fitzgeraldの新生となっている。

old worldとnew worldとの戦は、DickとNicoleとの結婚により開始される。Doctor Dohmlerや同僚の医師Franz Gregoroviusの忠告にもかかわらず、又偉大な精神病医になろうとする大望の放棄となるのをDickが認識していたにもかかわらず、何故DickがNicoleと結婚したのであろうか。Fussellは医師としてのDickの知性の欠如をその理由の一つにあげ、²⁶ SavageはNicoleの美と魂力とを第一に指摘している。²⁷ この点に関し、Fitzgeraldは、Dickの責任を、患者のNicoleと結婚した愚行の責任を強調している。

On an almost parallel occasion, back in Dohmler's clinic on the Zürichsee, realizing this power, he had made his choice, chosen Ophelia, chosen the sweet poison and drunk it. Wanting above all to be brave and kind, he had wanted, even more than that, to be loved(p.302).

ここでFitzgeraldは、Dickが他の何物よりも愛されるのを望んでいたと強調する事によって、逆にDickの内面にあふれている愛する力を強調しているように思われる。DickがNicoleを愛したが故に結婚したという事が、他の理由、原因に勝って強調されなければならない。

V 二つの世界の戦い

old worldとnew worldとの戦いはDickとNicoleとのvitalityの奪いあい、cannibalismに象徴されている。FitzgeraldはNicoleに二つの性質を与える事によって、NicoleをDickの世界に導き、Dickを破滅させる。

Nicoleはnew worldの犠牲者であるとDickが認識し、この認識がDickにNicoleとの結婚を決意させている。このようにNicoleは自我を失う事により、一時Dickの世界の人間となっている。

It occurred to Dick suddenly, as it might occur to a dying man that he had forgotten to tell where his will was, that Nicole had been "re-educated" by Dohmler and the ghostly generations behind him; it occurred to him also that there would be so much she would have to be told(pp. 153-54).

他方FitzgeraldはRosemaryの視点から、Dickの世界にあってさえnew worldの象徴としてのNicoleを描写している。

Nearest her, on the other side, a young woman lay under a roof of umbrella.... Her bathing suit was pulled off her shoulders and her back, a ruddy, orange brown, set off by a string of creamy pearls, shone in the sun(p.6).

Nicoleのこのa string of creamy pearlsは*The Great Gatsby*においてTomがDaisyに贈った、Mizenerによれば"the symbol of Daisy's surrender to Tom's world"²⁸である"a string of pearls valued at three hundred and fifty thousand dollars"²⁹と同じく富豪階級の象徴である。

Fitzgeraldは、plotが展開するに従い、搾取階級の原型としてのNicoleを次のように描写している。

Nicole was the product of much ingenuity and toil. For her sake trains began their run at Chicago and traversed the round belly of the continent to California; chicle factories fumed and link belts grew link by link in factories; men mixed tooth paste in vats and drew mouthwash out of copper hogsheads; girls canned tomatoes quickly in August or worked rudely at the Five-and-Tens on Christmas Eve; half-breed Indians toiled on Brazilian coffee plantations and dreamers were muscled out of patent rights in new tractors—these were some of the people who gave a tithe to Nicole, and as the whole system swayed and thundered onward it lent a feverish bloom to such processes of hers as wholesale buying, like the flush of a fireman's face holding his post before a spreading blaze(p.55).

Nicoleは、ありあまる vitalityを周囲の人々に分ち与えている Dickに吸血鬼のように吸いつき、Dickの血を、活力を吸いつづけて、壊れゆく Dickと対照的に快方に向う。

Nicoleが快方に向うと同時に、Fitzgeraldは視点を Dick から Nicoleに移し、幾年もの間彼女の唯一の世界であると信じていた Dickの世界に憎悪すら感じ始め、憎悪が反抗となり、次第に new worldへと移行していく Nicoleの内面の変化を描いている。

She had come to hate his world with its delicate jokes and politenesses, forgetting that for many years it was the only world open to her(p.280).

Nicoleの内面に起った変化は Nicoleが Tommyの愛を受け入れた後に、彼女の眼が white crook's eyesに変わったように、遂に外面に表われるようになるが、Nicoleは彼女のその変化を歓迎している。

A little later, riding toward Nice, she thought: So I have white crook's eyes, have I? Very well then, better a sane crook than a mad puritan(p.293).

その後 Nicoleはあらゆる手段を用いて Dickの世界との絆を断ち切り、彼女の本来の姿に、世界に、new worldへと再帰する。

VI Dick Diverの新生

Fitzgeraldは Dickの新生と交錯し、新生に先立ち、その伏線として Nicoleの新生を描いている。new worldの象徴である Nicoleのため破滅した old worldの象徴ともいべき Dickが新

に生れるためには Nicole の新生と同じ pattern, old world の鎖を断ち切り, new world へと移行する事によって新に生まれる過程をたどらねばならない。

James E. Miller は *Tender is the Night* の主題を次のように述べている。

Tender Is the Night relates the decline and disintegration of its hero, Dick Diver, from a position of great promise in clinical psychology to the level of a pitifully inept general practitioner, moving from town to town in upstate New York in search of his lost self—a decline whose cause are both complex and obscure.³⁰

Harding も Miller と同様に、主題を Dick の崩壊に求めている。

The story is the acutely unhappy one of a young psychiatrist, brilliant in every way, who gradually deteriorates. In place of plot there is a fine string of carefully graduated incidents to illustrate the stages of the decent.³¹

Miller や Harding のみならず Mizener, Savage 等ほとんどすべての批評家が *Tender is the Night* は Dick の崩壊の物語であると考えている。しかし Fitzgerald は Dick の崩壊と共に新生をも描いている。

Miller はこの小説の構成を大文字の X に喩えている。

The structure of *Tender* may be conceived as a large X, with the one line marking Dick's decline, the other Nicole's rise.³²

Dick と Nicole の崩壊と新生は交錯し, Nicole の場合, Miller が指摘するように上昇する線で表わされる。しかし Dick の場合には X の中心点で下降は止まり, 波動しながら, 上昇する傾向を見せながら横の方向に向う斜線となる。

X の中心点をどこに求めるか Miller は言及していないが, 発作をおこした Nicole の鋭い直感で, old world がすでに崩壊してしまったのを指摘された直後に旅へ出て, Nicole から解放された喜びと安らぎに浸った時, 突然 Dick が崩壊を認識した点に求められうるかもしれない。

But Dick had come away for his soul's sake, and he began thinking about that. He had lost himself—he could not tell the hour when, or the day or the week, the month or the year. Once he had cut through things, solving the most complicated equations as the simplest problems of his simplest patients. Between the time he found Nicole flowering under a stone on the Zürichsee and the moment of his meeting with Rosemary the spear had been blunted (p. 201).

しかし Dick が Nicole との戦いに敗北して, 彼の自我が全く崩れてしまったと認識した時は, Dick が新生への努力を始める時でもある。

"Then why did you come, Nicole? I can't do anything for you any more. I'm trying to save myself." (p. 301)

Tender is the Night を Dick の新生という点から考察する場合に, Fitzgerald が Rosemary に narrator としての役割のみでなく, Dick の新生への努力という点に関して重要な役割を与えた事で, Rosemary の early version である Francis Melarky が主人公であった初期の草稿との関係がより明確なものとなっている。Fitzgerald は, Dick が Nicole を救ったの

と並行して、Rosemaryが豊かに持っている vitality を Dick に与える事により、Rosemary を Dick の新生への努力に参加させようとしている。

Fitzgerald は Rosemary に new world の富豪階級の vitality と同質なものとして職業を持つことから生れ出る vitality を与えている。Dick がこの力を次のように指摘している。

"Of course we've been excited about you from the moment you came on the beach. That vitality, we were sure it was professional—especially Nicole was. It'd never use itself up on any one person or group." (p.38)

この点で Rosemary も new world の新興階級であり、常に Nicole を模倣して Gatsby のように独力で new world に確固たる地位を築こうとしている。

With Nicole's help Rosemary bought two dresses and two hats and four pairs of shoes with her money. Nicole bought from a great list that ran two pages, and bought the things in the windows besides She illustrated very simple principles, containing in herself her own doom, but illustrated them so accurately that there was grace in the procedure, and presently Rosemary would try to imitate it (pp.54-55).

しかし反面、母の Speers 夫人から受け継いだ理想主義と stoicism の精神が Rosemary を支えており、この点で Rosemary は登場人物のうち最も Dick に近い存在である。このように Fitzgerald は、Rosemary に new world の vitality とは異質の、無垢な childishness より生れ出る vitality を与えている。

Fitzgerald は childishness 或は innocence を vitality の源として初期の小説より描いている。 *This Side of Paradise* において "a baby girl" のように無責任なヒロイン、Rosalind は美と若さを保証されている。

Her fresh enthusiasm, her will to grow and learn, her endless faith in the inexhaustibility of romance, her courage and fundamental honesty—these things are not spoiled.³³

The Beautiful and Damned において "a jazz-baby", 或は "a baby vamp" と呼ばれている Gloria が、人生にいかなる意義をも認めない、"the meaninglessness of life" を核とする人生観を捨て、人生を肯定するまでに成長した時には、すでに美と vitality を失っている。 *The Great Gatsby* のヒロイン、Daisy は小説の初めにおいて、すでに無垢な乙女ではなく、"a sophisticated woman" として描かれており、間接的にしる Gatsby 殺害に加担することになる。

Tender is the Night の巻頭で、Fitzgerald は潑刺とした子供を連想させる、活力と若さあふれる Rosemary を描写している。

However, one's eye moved on quickly to her daughter, who had magic in her pink palms and her cheeks lit to a lovely flame, like the thrilling flush of children after their cold baths in the evening Her body hovered delicately on the last edge of childhood—she was almost eighteen, nearly complete, but the dew was still on her (pp.3-4).

父を幼い時に失った Rosemary は Dick に父の面影を求め、Dick もしばしば彼女に父親らしい態度

をとっている。

He pointed his forefinger decisively at Rosemary, saying with a lightness seeming to conceal a paternal interest, "I'm going to save your reason—I'm going to give you a hat to wear on the beach." (p. 28).

DickとRosemaryは心理的に父と子の関係にあり、DickがDevereuxの罪を犯さないためにも、Rosemaryが彼の苦境を理解出来るようになるまで、Dickは彼女を愛してはならないと悟る。

しかしDickが彼等の愛のために望んだように、Rosemaryがもはや"Mama's little girl" (p. 208)ではなく、"a woman of the world" (p. 208)に成長した時は、Rosemaryがchildishnessと共にあるvitalityを失う時、Dickを救いえない時となる。それ故に、Rosemaryとの長年にわたる恋が実っても、"Rome was the end of his dream of Rosemary" (p. 220)となる。

Rosemaryに失望した後、Dickの内面の崩壊は暴力と酒と性における墮落という形で外に表われ、Dickはnew worldへ接近する。しかしold worldから完全に分離したわけではなく、Nicoleと結婚した時に断念した医師としての仕事と使命に救いを求め、A Psychology for Psychiatristという論文の完成に全力を注ぐ。しかし精神病医にとり致命的なアルコール中毒になったため、Dickを解雇する機会を待っていたFrantzに仕事を奪われる。このようにold worldが崩壊し、もはや存在しないとの認識にもかかわらず、Dickはnew worldの人間にもなりきれない。old worldとnew worldとのリンボーで新生の希望を失い、彼を破滅させたNicoleを道連れに死の誘惑にかられる。

"You ruined me, did you?" he inquired blandly. "Then we're both ruined. So—"

Cold with terror she put her other wrist into his grip. All right, she would go with him—again she felt the beauty of the night vividly in one moment of complete response and abnegation—all right, then—

—but now she was unexpectedly free and Dick turned his back sighing, "Tch. tch." (pp. 273-74).

Nicoleはnew worldへ移行した際、Chanel Sixteenでold worldを冒瀆する十字を切った。

She put on the first ankle-length day dress that she had owned for many years, and crossed herself reverently with Chanel Sixteen. When Tommy drove up at one o'clock she had made her person into the trimmest of gardens (p. 291).

DickもNicoleのように、遂にold worldの鎖を断ち切り、離別したしるしに、かつてDickの世界であったリヴィエラ海岸を立ち去る時にold worldを冒瀆する十字を切る。

He raised his right hand and with a papal cross he blessed the beach from the high terrace (p. 314).

このように*Tender is the Night*はDickが遂にnew worldへ移行し、new worldの人間となったのを暗示して終る。

Alfred Kazinは*The Last Tycoon*とFitzgeraldの他の作品を比較し、*The Last Tycoon*におけるFitzgeraldの驚異的な成長に言及している。

Stahr is unquestionably the greatest of Fitzgerald's achievements; even in the half-pages of the unfinished *The*

Last Tycoon he has a depth, a variety of human knowledge, that were missing from the young dancers of the twenties, the nostalgia of *Gatsby*, or the arbitrary breakdown of *Dick Diver*.³⁴

しかし *Tender is the Night* はたんに the arbitrary breakdown of *Dick Diver* の物語ではなく、*The Last Tycoon* に向う Fitzgerald の態度を示す Dick の新生の物語である。

The Crack-Up は、Fitzgerald の死後、彼の随筆、書翰、覚え書き等を Edmund Wilson が蒐集、編集して、1945年に出版された。*The Crack-Up* 中の三つの随筆、*The Crack-Up*, *Handle With Care*, *Pasting It Together* において、Fitzgerald は自己の崩壊と共に、Fitzgerald が輝やかな未来を夢見ていた、多感な青年であった時代、1920年代の崩壊を分析しようと試みている。Fitzgerald は内面の精密な吟味、分析を通して、アメリカにおける1920年代より1930年代への変化を鋭くとらえている。

I think that my happiness, or talent for self-delusion or what you will, was an exception. It was not the natural thing but the unnatural—unnatural as the Boom; and my recent experience parallels the wave of despair that swept the nation when the Boom was over.³⁵

Fitzgerald は自我の崩壊は過去からの分離を意味すると認識し、もはやいかなる理想、価値の存在をも認めようとしなない。

A clean break is something you cannot come back from; that is irretrievable because it makes the past cease to exist. So, since I could no longer fulfill the obligations that life had set for me or that I had set for myself, why not slay the empty shell who had been posturing at it for four years? I must continue to be a writer because that was my only way of life, but I would cease any attempts to be a person—to be kind, just or generous.³⁶

Lionel Trilling は、Fitzgerald の全作品の著しい特色は作者の人々に対する深い愛と優しさであると述べている。

Fitzgerald wrote much about love, he was preoccupied with it as between men and women, but it is not merely where he is being explicit about it that his power appears. It is to be seen where eventually all a writer's qualities have their truest existence, in his style. Even in Fitzgerald's early, cruder books, or even in his commercial stories, and even when the style is careless, there is a tone and pitch to the sentences which suggest his warmth and tenderness, and, what is rare nowadays and not likely to be admired, his gentleness without softness.³⁷

Trilling は、*The Crack-Up* は作者の愛の力のゆえに、悲愴な the heroic quality を表現すると主張するが、Fitzgerald は、人々に対する愛と優しさのため、他に彼自身を与えたために崩壊したのだと確信して、*The Crack-Up* を愛の放棄のために書いたのである。Fitzgerald は他に対する愛と責任を放棄し、過去の絆を断ち切り、現在に、1930年代に生きる決意でこれらの随筆を結んでい

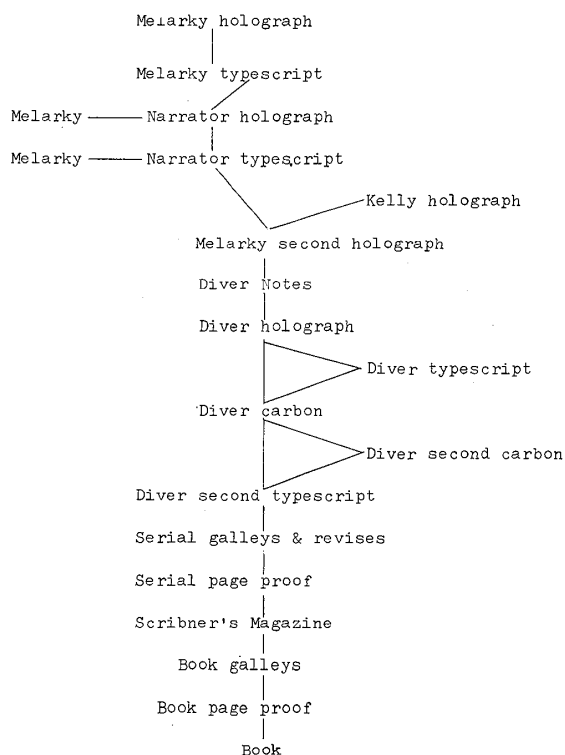
る。

このように輝く未来を約束されていた彼の時代と世界であった1920年代の崩壊を認識し、物質主義と商業主義の波がすべてを呑み込んでしまう世界と時代を直視し、その新たな世界と時代に立ち向う作家としての姿勢を、*The Crack-Up*でFitzgerald自らが語り、*Tender is the Night*においてはold worldという代償を払ってもなお一介の医者として町から町へ彷徨いながらnew worldに生きつづけるDick Diverの姿をとらして示している。Fitzgerald自身が"I have now at last become a writer only"³⁸と、たとえ一介の作家となろうとも、二十世紀の現実を直視する作家となる事によって、Lost Generationという一つの新しい伝統に属する作家となったのであり、*Tender is the Night*がFitzgeraldのこの変化、転換を示す作品となっている。

註

本稿は昭和44年10月、東北英語 英文学会において、「*Tender is the Night*におけるF. Scott Fitzgeraldの新生」という題で口頭発表したのを敷衍したものである。

1. Cf. T. Harry Williams, Richard N. Current, Frank Freidel, "The Illusion of Normalcy," in *A History Of The United States* (New York, 1960), pp.409-31.
2. Edith Wharton, "Meanwhile, let me say at once how much I like Gatsby, or rather His Book, & how great a leap I think you have taken this time—in advance upon your previous work," (*The Crack-Up*, New Directions, 1945, p.309).
3. T.S. Eliot, "When I have time I should like to write to you more fully and tell you exactly why it seems to me such a remarkable book. In fact it seems to me to be the first step that American fiction has taken since Henry James ..." (*ibid.*, p.310).
4. *Ibid.*, p.70.
5. John Dos Passos, *ibid.*, p.339.
6. Arthur Mizener, *F. Scott Fitzgerald: A Biographical And Critical Study*, London, 1958, p.248.
7. *Ibid.*, p.180.
8. Arthur Mizener, "F. Scott Fitzgerald 1896-1940 The Poet of Borrowed Time," in *F. Scott Fitzgerald: The Man And His Work* (ed. Alfred Kazin, New York, 1962), p.34.
9. Cf. Sergio Perosa, *the art of F. Scott Fitzgerald*, translated by Charles Matz and the author, Ann Arbor, 1965, p.104.
10. Matthew J. Bruccoli は18の草稿を次のように図解している。



- Matthew J. Bruccoli, *The Composition Of Tender is the Night* (University of Pittsburgh Press, 1963), P. XXV.
11. F. Scott Fitzgerald, *The Letters of F. Scott Fitzgerald* (ed. Andrew Turnbull, New York, 1963), p.281.
 12. Cf. James E. Miller, *F. Scott Fitzgerald: His Art And His Technique* (New York, 1964), p.134.
 13. Robert E. Spiller, *The Cycle Of American Literature* (New York, 1955), p.196.
 14. Edmund Wilson, *The Shores Of Light* (New York, 1952), p.28.
 15. F. Scott Fitzgerald, *The Great Gatsby* (New York, 1925), p.182.
 16. F. Scott Fitzgerald, *Tender is the Night* (New York, 1934), p.117.
 17. F. Scott Fitzgerald, *op. cit.*, p.182.
 18. Edwin Fussell, "Fitzgerald's Brave New World," in *F. Scott Fitzgerald: A Collection Of Critical Essays* (ed. Arthur Mizener, N. J., 1963), p.50.
 19. Sergio Perosa, *op. cit.*, p.162.
 20. D.S. Sabage, "The Significance of F. Scott Fitzgerald," in *F. Scott Fitzgerald: A Collection Of Critical Essays*, p.153.
 21. D.W. Harding, "Mechanisms of Misery," *ibid.*, p.144.
 22. Arthur Mizener, *op. cit.*, p.245.
 23. F. Scott Fitzgerald, *op. cit.*, p.162.
 24. *Ibid*, p.177.
 25. Ernest Hemingway, *The First 49 Stories* (London, 1944), p.78.
 26. Cf. Edwin Fussell, *op. cit.*, pp.52-3.
 27. Cf. D.S. Savage, *op. cit.*, p.152.
 28. Arthur Mizener, *op. cit.*, p.174.
 29. F. Scott Fitzgerald, *op. cit.*, p.77.
 30. James E. Miller, *op. cit.*, p.135.
 31. D.W. Harding, *op. cit.*, p.143.
 32. James E. Miller, *op. cit.*, p.140.
 33. F. Scott Fitzgerald, *This Side Of Paradise* (New York, 1920), p.171.
 34. Alfred Kazin, "An American Confession," *F. Scott Fitzgerald: The Man And His Work*, pp.181-82.
 35. F. Scott Fitzgerald, *The Crack-Up*, *op. cit.*, p.84.
 36. *Ibid.*, pp.81-2.
 37. Lionel Trilling, "F. Scott Fitzgerald," *F. Scott Fitzgerald: A Collection Of Critical Essays*, p.12.

A Study On F. Scott Fitzgerald's Tender Is The Night

Kimiko HOMMA

This thesis seeks to probe the disintegration and renewal of F. Scott Fitzgerald through his fourth novel, *Tender is the Night*.

Fitzgerald has not published any novel for ten years since he wrote *The Great Gatsby* in 1925. The ten-year silence can be explained in many ways. His life was more and more restless and disordered. But the delay of the completion of *Tender is the*

Night seems to be more due to his ambitious plans than to his predicament. That is why the novel has many versions. He strived to form its leading idea and established its fictional achievement.

At the very end of *The Great Gatsby* Fitzgerald revealed his decision that he went on against the current of history, and he took up the theme again in this novel. Just as Gatsby lived in his old world, so Dick Diver lived there. Dick's world, which has been for some time the world of the past, is the world in which Fitzgerald reveals the innocence, incorruption and maturity of the past of America.

In this novel Fitzgerald reveals another world or the new world in contrast to the old world. The new world is full of corruption, disorder and evil. There is a sort of physical and spiritual cannibalism going on between Dick and Nicole, which symbolizes the struggle between the old world and the new world. And he seems to reveal the collapse of the old world. The novel, however, does not end with Dick's wreck. We are apt to overlook the undercurrent of the novel, that is to say, the hero's efforts to win renewal in the new world. At this point *Tender is the Night* represents a notable turning point in Fitzgerald's novels.